

部局名	教育委員会	所属名	指導課	所属長名	三橋 勝則	電 話	481-0301
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3385		事務事業名称	情操芸術教育振興事業					短縮コード	経常	3385	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	03	教育振興費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		学校教育法施行規則第25条、第54条の2、小学校学習指導要領 音楽・図画工作、中学校学習指導要領 音楽・美術						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
児童生徒の芸術に対する親しみと心の豊かさを醸成するために、小中学校音楽会、美術展、音楽鑑賞教室等を実施する。小中学校音楽会は、児童生徒の表現力を豊かにし、芸術活動への参加機運を醸成するために昭和54年ごろに始まった。ふれあいコンサート事業においては、子ども憲章関連事業（臨時）として平成19年度までとし、平成20年度より本事業に包括した。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測					総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして					
児童生徒は増加傾向にある。学習内容は削減。芸術活動に関する関心は高まってきている。作品発表の場は増えている。						大項目（節）	01	学校教育					
						中 項 目	02	義務教育					
						小項目（施策）	02	教育内容の充実					
						細 項 目	01	学習・生徒指導の充実					
03	心の教育の推進												
					実施計画の計画事業								
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～		計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	児童生徒 教員									
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成19年度に実際に行ったこと： 児童生徒の作品出品・作品審査、教員研修、小中音楽会の原案作成委員会開催（年2回）、実行委員会の開催（年4回）、音楽会実施（2日間）、音楽鑑賞教室運営委員会開催（年1回）、音楽鑑賞教室実施（9公演）									
	※平成20年度に計画していること： 19年度と同様									
意図 （何を狙っているのか）	児童生徒の芸術活動の活性化を図るとともに、芸術に対する親しみを持たせ、情操の涵養を図る。また、芸術活動に関する教員の資質の向上を図る。さらに児童生徒の芸術文化活動への参加機運を醸成する。									
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外									
区 分					単位	18年度	19年度		20年度	
						実績	計画	実績	計画	
対象指標	指標1	児童生徒数	人	15,381	15,834	15,552	16,164			
	指標2									
	指標3									
活動指標	指標1	子ども美術展・学校美術館スケッチ展出品数	点	2,725	2,750	2,377	2,400			
	指標2	小中学校音楽会参加児童生徒数	人	2,502	2,502	2,456	2,500			
	指標3	音楽鑑賞教室参加児童生徒数	人	4,945	5,745	5,576	4,984			
成果指標	指標1	出品数／児童生徒数	%	17.7	17.4	15.3	14.8			
	指標2	音楽会参加児童生徒数／児童生徒数	%	16.3	15.8	15.8	15.5			
	指標3	音楽鑑賞教室参加児童生徒数／児童生徒数	%	32.2	36.2	35.9	30.8			
上位成果指標	指標1									
	指標2									
	指標3									

コード	3385	事務事業名称	情操芸術教育振興事業				所属名	指導課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			美術分野においては、学校美術館スケッチ展の入館者数は2905名、子供美術展の入館者数は1213名、県展市内展の入館者数は1026名と、年々地域の関心が高まっている。 また、音楽分野では、小中市内音楽会において、高いレベルの完成に向けてどの学校も懸命に取り組んでおり、高度の演奏が披露されている。さらに、平成20年度より、市内ふれあいコンサートを事業に包括し、音楽領域におけるレベルも高まりつつある。今後これらを更に推進し、情操教育の充実を図っていきたい。			
		☒ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止								
☐ 休止								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			情操芸術教育を充実させるため	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
美術展、スケッチ展については、来場された方から「他市にないすばらしい美術展ですね。」という賞賛の声も聞くことができ、児童生徒の作品のよさに触れ、満足度が高い。展示した児童生徒及び保護者は自信になり、学習意欲の高まりがうかがえる。小中音楽会では教員の指導力の向上が見られ、各校の演奏の質も向上している。保護者だけでなく一般市民にも参観していただいており、年々参観者が増え、児童生徒の取り組みに賞賛の声が上がっている。音楽鑑賞教室の実施報告によれば、鑑賞した児童生徒の感動は大きく、実施する価値がある。さらに本格的な演奏を設備の整った施設で鑑賞させたいという声もあがっている。また、音楽以外の芸術活動にも触れさせたい。									

所属長コメント	情操教育の充実は、子ども達の「心を育てる」上で大きな力となるものであり、今後とも充実に努めたい。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			情操教育の一環として「市内ふれあいコンサート」を統合が行われたことにより、情操教育の拡充を図るべき。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☒ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☐ 現状のまま継続									